

セルフモニタリング報告書（令和7年度分）

令和 8 年 4 月 30 日

施設名：中央図書館
指定管理者名：TRC苫小牧グループ
所管課名：教育部 生涯学習課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価				
1 事業計画の達成度						
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	計画に基づき、実施した。	A	B	C	D	E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	コロナ禍以前の数値には戻っていないが、利用者数等は徐々に回復傾向である。利用者の利便性の向上に関しては、意見箱、利用者アンケートによりニーズを把握し、利便性の向上を図っている。	A	B	C	D	E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。		－	－	－	－	－
自主事業は計画どおり行われたか。	レッドイーグルス北海道のWASHIトークは日程が合わず、実施出来なかったが、他、計画した事業に関しては遺漏なく実施した。	A	B	C	D	E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	地域連携・ボランティア団体ともに、積極的に事業を開催した。	A	B	C	D	E
2. 利用者の満足度						
利用者の満足が得られているか。	アンケート結果は、高い満足度を得られた。	A	B	C	D	E

利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	定期的なアンケートの実施とご意見箱を設置し把握に努めた。	A	B	C	D	E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	スピーディーな対応を心掛け、対応した。	A	B	C	D	E
3 管理運営の効率性						
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	コストメリットの高い項目に関しては、域内購入を基本としながら、市外も視野に入れ、経費削減に努めた。	A	B	C	D	E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	適切な水準を意識し、経費削減に取り組んだ。	A	B	C	D	E
収入増加のための取組はされているか。		A	B	C	D	E
4 適正な管理運営						
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	積極的に内外の研修に参加し、様々な内容の研修を行った。	A	B	C	D	E
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	適正に行った。	A	B	C	D	E
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適切に取り組みましたが、有資格者の水準を下回る状況があったが、引き続き、有資格者獲得及びサービス維持向上のため社のサポート体制を強化していく。	適			不適	

施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。	適切な使用許可、平等な利用を実施した。	適		不適		
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	適切な管理を行った。	適		不適		
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	適正に行った。	適		不適		
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	適正に行った。	適		不適		
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	適正に行った。	適		不適		
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	適正に行った。	適		不適		
5 地域貢献						
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	市内で雇用・資材調達を積極的に行い、地元企業・スポーツ団体と連携を図った。	A	B	C	D	E

- A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B：目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C：概ね目標、事業計画どおり行われおり、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

総合評価



【★の数が5～0の6段階評価で評価しています。】

〈 4 適正な管理運営において不適がある場合、その理由と今後の対応について 〉

「人員配置及び職員の管理体制は適正か。」項目に関して、仕様書の有資格者率を年間通して、厳守することが出来なかった。有資格者の獲得を積極的に行うとともに、他地域からの採用をした。また、現在、仕事に従事しつつ資格取得に向け取り組んでいるスタッフが2名いる。引き続き司書資格取得に協力し、司書率アップに繋げていきたい。

指定管理者の自己評価（全体を通して）

以下、項目ごとの自己評価を記載いたします。各項目の実績詳細につきましては、別に提出いたします年度報告書をご確認願います。

○図書館運営業務

【主要サービス利用数（対前年度比）】 入館者数：216,612人（96.65％）、利用人数：77,306人（99.87％）、個人貸出点数：337,158点（98.89％）、予約件数：92,471件（100.96％）、新規登録者数：1,017人（87.30％）、レファレンス処理件数：6,984件（100.56％）

【事業運営】主催事業総数47本 延べ参加者数4,885名（前年比149.29％）

主要サービス利用数に関しては、昨年を超える形で1年間を終了することができました。徐々に賑わいのある図書館に戻りつつあることが数値からも伺えます。この勢いに乗り次年度も積極的に利用促進に努めていきます。

本年度事業については、各事業ともにほぼ定員になり開催いたしました。利用者アンケートに関しても概ね良好であり、頂いた貴重なご意見は今後の運営に活かしていきます。

○施設維持管理業務

法定検査、日常維持管理業務等につきまして、計画どおり実施いたしました。期間中の設備故障につきましても、適切に修繕いたしました。

貸室につきましても、条例／規則、及び仕様書記載条件等に照らし、適切に許可発行いたしました。

○収支等

市内、地域内購入を基本とし、昨年同様重油供給先等、市外事業者を含めて選定し、経費縮減に努めました。